

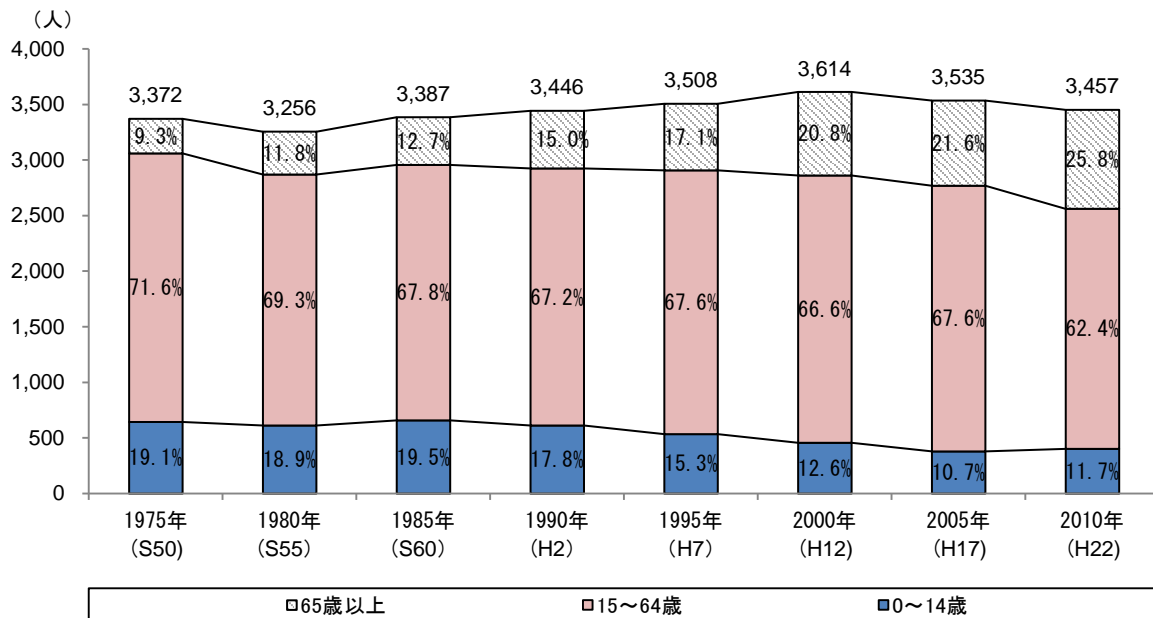
第8章 王喜地区の個別分析

王喜地区の人口の状況について、個別の分析を行います。

1 王喜地区の人口推移

王喜地区の人口は、図表 8-1 のとおり 2000(平成 12)年までは概ね増加傾向にあり、以降は、減少傾向に転じています。高齢化率は年々上昇していますが、生産年齢人口(15～64 歳)及び年少人口(0～14 歳)の全人口に占める割合は、概ね減少傾向にあります。

図表 8-1 王喜地区人口の変化(1975 → 2010年)



資料) 総務省「国勢調査」を基に作成

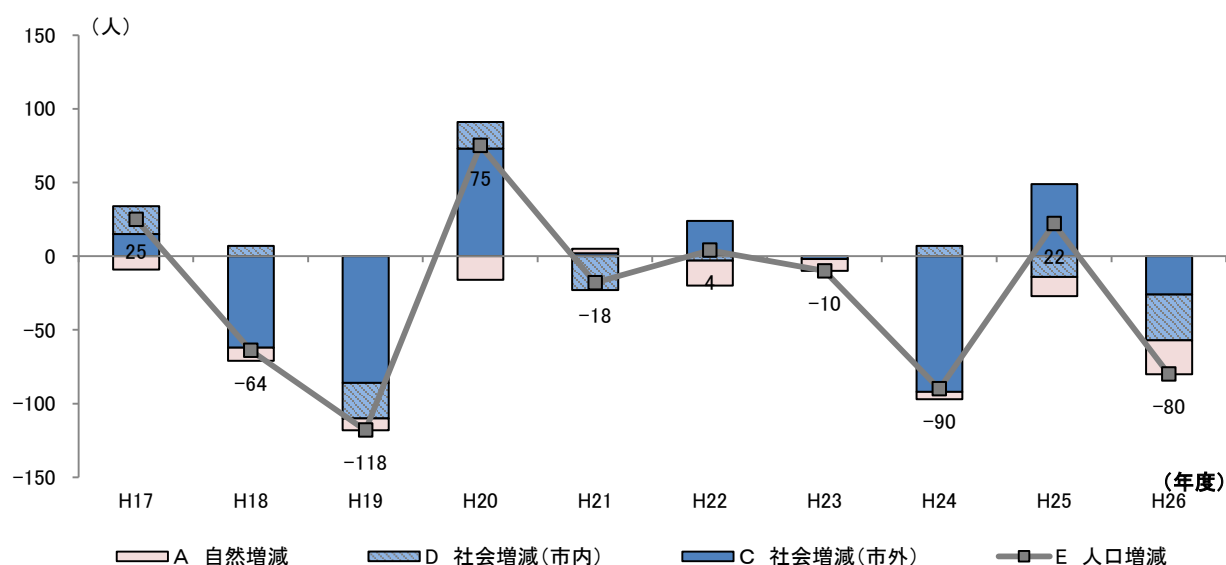
王喜地区における 2005(平成 17)年度から 2014(平成 26)年度まで、10 年間の自然増減及び社会増減の推移をみると、図表 8-2 のとおりとなります。

自然増減(A)については、概ね出生数を死亡数が上回る減少傾向が続いています。一方で社会増減(B)については、増加の年と減少の年が約半々となっています。社会増減の内訳をみると、市外移動による社会増減(C)と市内移動による社会増減(D)ともに、増加の年と減少の年が約半々であることがわかります。

過去 10 年間の王喜地区の人口増減(E)は、増加と減少を繰り返しながら推移しています。

図表 8-2 王喜地区の人口動態 (2005(平成 17)年度～2014(平成 26)年度)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
A 自然増減	(a-b)	-9	-9	-8	-16	3	-17	-8	-5	-13	-23
a 出生数		24	29	23	29	24	28	28	29	26	18
b 死亡数		33	38	31	45	21	45	36	34	39	41
B 社会増減	(C+D)	34	-55	-110	91	-21	21	-2	-85	35	-57
C 社会増減(市外)	(c-d)	15	-62	-86	73	2	24	-2	-92	49	-26
c 転入(市外)		288	244	207	328	247	245	231	143	275	219
d 転出(市外)		273	306	293	255	245	221	233	235	226	245
D 社会増減(市内)	(e-f)	19	7	-24	18	-23	-3	0	7	-14	-31
e 転居入(市内)		99	95	51	95	76	93	74	106	73	63
f 転居出(市内)		80	88	75	77	99	96	74	99	87	94
E 人口増減	A + B	25	-64	-118	75	-18	4	-10	-90	22	-80



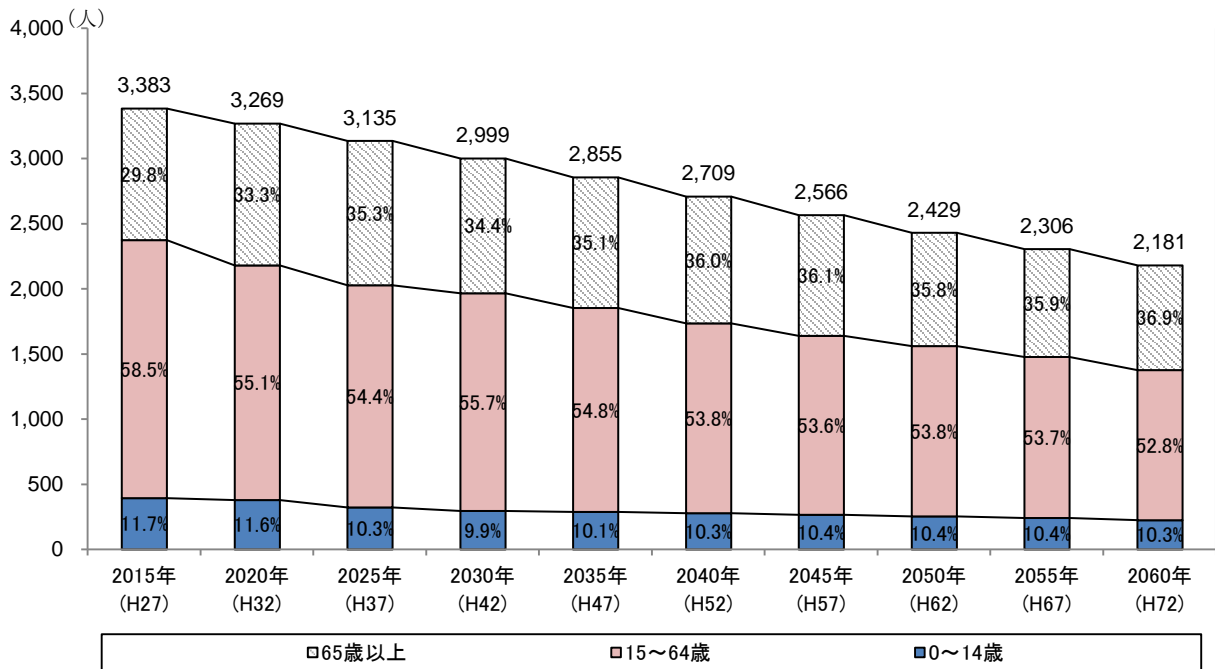
資料) 下関市ホームページ「統計しものせき (地区別の数値)」を基に作成

2 王喜地区の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠して王喜地区の将来人口を推計すると、図表 8-3 のとおりとなります。総人口については、減少が続く一方、高齢化率は、2060 (平成 72) 年まで増加を続ける見込みです。

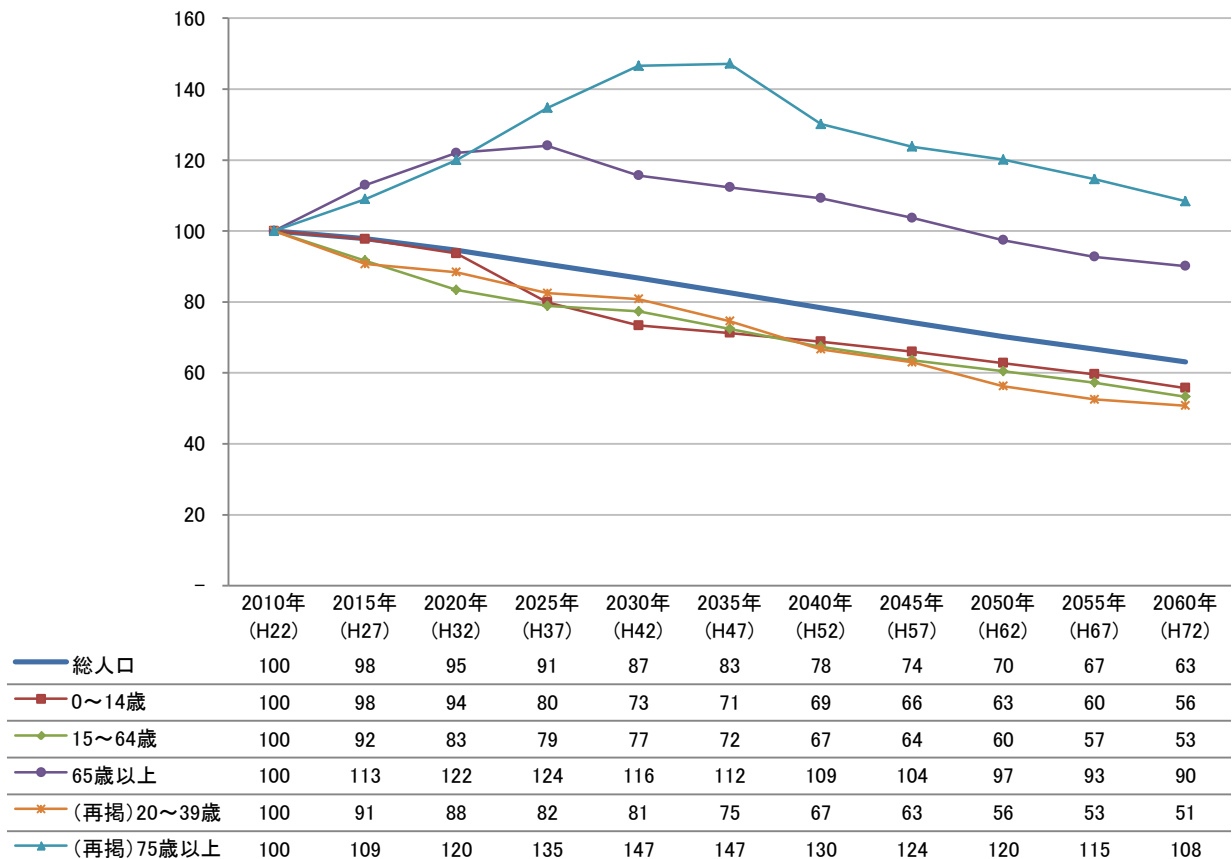
また、総人口及び各年齢区分の人口について、2010 (平成 22) 年の人口を 100 として年齢区分別人口の推移をみると、図表 8-4 のとおりとなります。総人口、年少人口 (0 ~ 14 歳)、生産年齢人口 (15 ~ 64 歳) は一貫して減少を続け、20 ~ 39 歳については 2060 (平成 72) 年に約半数まで減少する見込みとなります。一方、65 歳以上の人口は 2025 (平成 37) 年まで上昇した後に減少に転じ、75 歳以上の人口は 2030 (平成 42) 年まで上昇し 2035 (平成 47) 年以降、減少に転じる見込みとなっています。

図表 8-3 王喜地区将来人口推計 (2015-2060年)



資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

図表 8-4 王喜地区年齢区分別人口の推移 (2010年=100)

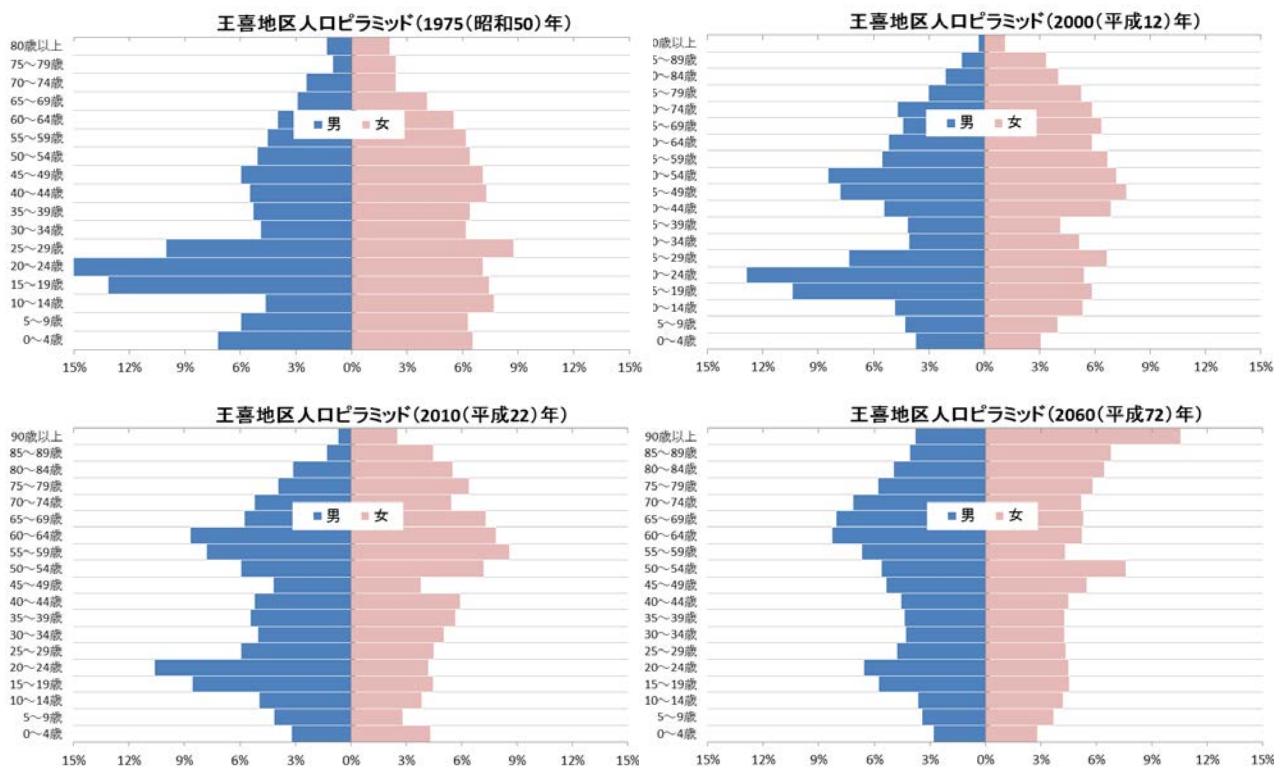


資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

3 王喜地区の人口ピラミッド分析

1975（昭和 50）年にピラミッド型に近い形状であった人口の年齢別構成比は、若年層の減少・高齢者の増加により、つぼ型に変化していく見込みです。

図表 8-5 王喜地区人口ピラミッド(年齢別構成比)の推移 (1975年 → 2000年 → 2010年 → 2060年)



注) 1975年、2000年、2010年は実績値（年齢不詳を除く）。2060年は下関市推計値。

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

4 王喜地区の特性分析

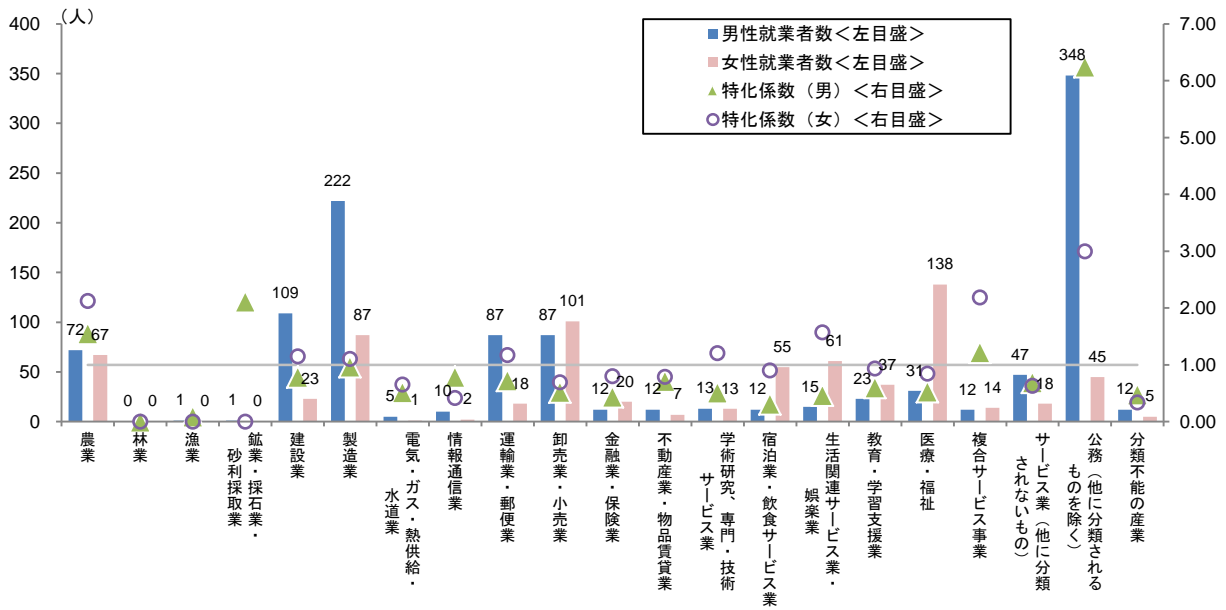
国勢調査（平成 22 年）の小地域集計から、王喜地区の特性を分析します。

(1) 常住地による就業人口 (図表 8-6)

- 男性は海上自衛隊小月航空基地を有する同地区の特性を反映し、「公務」の従事者が350人超と最も多く、次いで「製造業」が200人超となっている。女性は「医療・福祉」、「卸売業、小売業」の従事者数が多い。
- 本市全体の構成比と比較した「特化係数¹」は、男女共に「公務」の値が最も高いほか、女性では「生活関連サービス業、娯楽業」の値が高い。さらに、男女とも「農業」の値が高く、女性の値は2を超えている。

¹ 当該地区の構成比を本市全体の構成比で除して得た値。ここでは1より大きい産業ほど、市全体と比べて就業者数の割合が大きいことになる。（地区の特徴をみるため、特化係数が高く、ある程度就業者数が多い産業について記述。）

図表 8-6 王喜地区の男女別産業(大分類)別人口 (15歳以上就業者数:男性総数 1,131人、女性総数 712人)

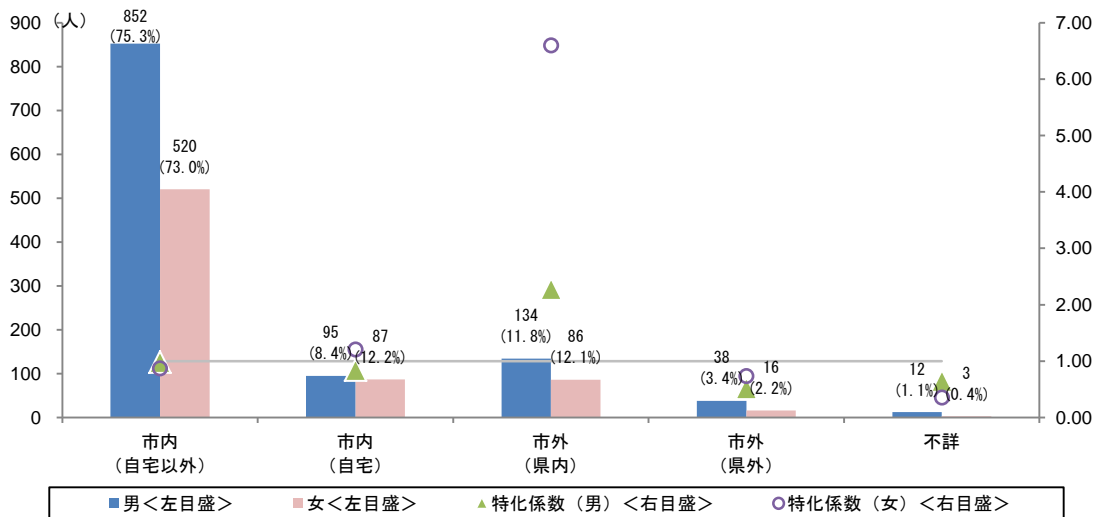


注) 特化係数は下関市全体との比較
資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(2) 王喜地区住民の就業地 (図表 8-7)

- 男女とも「市内(自宅以外)」で就業している人の数が多い。
- 市全体の構成比と比較した特化係数は、男女とも「市外(県内)」の値が高く、特に女性の値は6を超えている。

図表 8-7 王喜地区住民の就業地 (15歳以上就業者数:男性総数 1,131人、女性総数 712人)

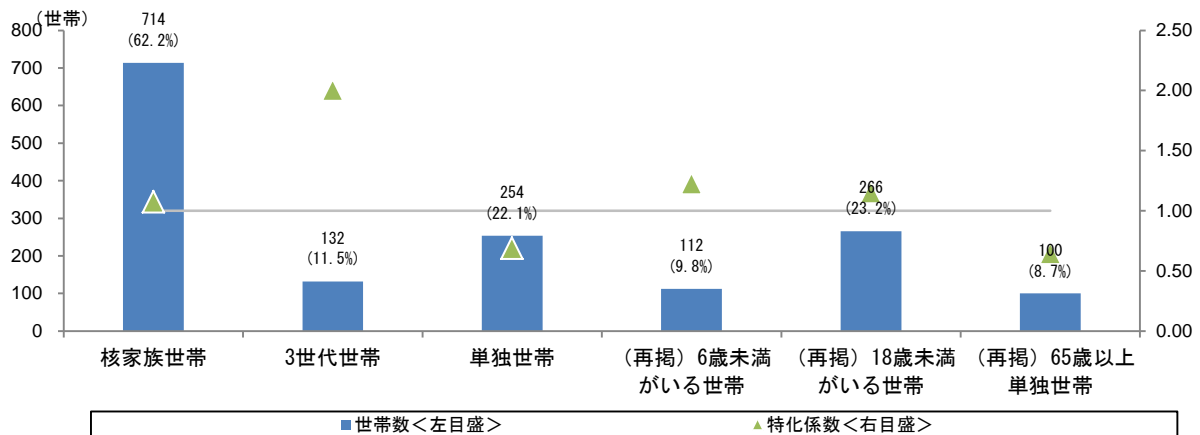


注) () 内の数値は、15歳以上就業者数男女各総数に占める割合。
注) 特化係数は下関市全体との比較
資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(3) 王喜地区内の一般世帯の状況 (図表 8-8)

- ・「核家族世帯」の数が最も多い。
- ・市全体の構成比と比較した特化係数は、「3世代世帯」、「6歳未満がいる世帯」の値が高い一方、「単独世帯」、「65歳以上単独世帯」の値が低い。

図表 8-8 王喜地区の一般世帯の状況 (一般世帯総数:1,148 世帯)



注) () 内の数値は一般世帯数に占める割合。(再掲の値があるため、合計は100%にならない。)

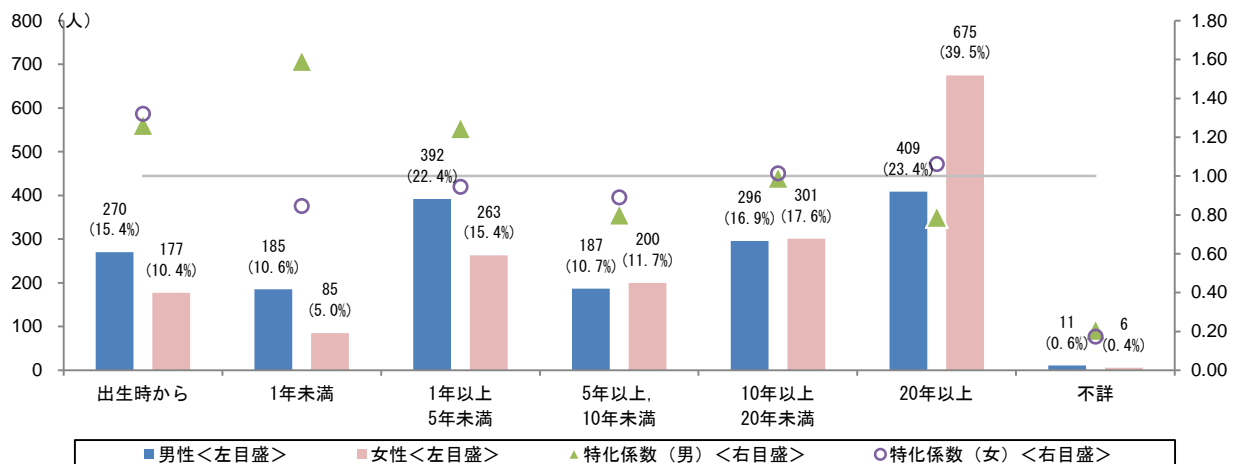
注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(4) 王喜地区住民の居住期間 (図表 8-9)

- ・男性は居住期間「20年以上」、「1年以上5年未満」の人数が、女性は居住期間「20年以上」の人数が多い。
- ・市全体の構成比と比較した特化係数は、男性は「1年未満」、「1年以上5年未満」の値が高く、女性は「出生時から」の値が高い。

図表 8-9 王喜地区住民の居住期間 (男性総数 1,750 人、女性総数 1,707 人)



注) () 内の数値は、男女各総数に占める割合。

注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成